

専門分野

基礎看護学

【科目の構成とねらい】

看護は人間を理解することで必要な支援が明らかになる。そのためには、人間・看護・健康・生活・医療の基礎を学び、発展させることで、専門職としての資質を身につけることができる。基礎看護学は、他の専門分野の基礎となる基礎的理論や基礎的看護技術を学ぶ位置づけとする。基礎看護学で学ばせる内容は他の専門分野の基盤となる内容を強調して教授し、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とする。

基礎看護学の科目は、看護学概論・看護理論・ヘルスアセスメント論・生活援助論・人間関係成立・看護倫理・診療の補助技術・クオリティ看護論の計 12 単位とした。また、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を養うため、演習を強化した組み立てとし、シミュレーションや ICT を活用した学習方法を取り入れる。

「看護学概論」

看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を認識できる内容とする。「看護の概念」「看護の対象」「健康の概念」「看護の機能と役割」等で構成し、看護一般の概念や看護の本質について学ぶ内容とする。

「看護理論」

近代看護の創始者である、ナイチンゲールの看護の考え方をはじめ、代表的な諸理論を学び人間の理解を深めるとともに看護を考える力を養う内容とする。

「ヘルスアセスメント論」

患者の身体状況を把握できる基本的医学知識(フィジカルアセスメント)と技術を身につけ、健康状態の評価を学ぶ。

「看護倫理」

倫理的判断・行動の強化のため、1 単位と独立させた。演習により看護実践における倫理的意思決定についての思考判断能力を養う。

「生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、確実に習得することで実践力の向上を目指す。内容は、形態機能学を踏まえて精選し、「活動休息・生活環境」「食事・排泄」「安楽・清潔・衣生活」を組み立てる。看護の対象を生活者として捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な看護技術の基本を学ぶ。

「人間関係成立の技術」

対象となる患者・家族をはじめ、医療チーム内のメンバーとの関係構築に向けた実践的なスキルを目指す。コミュニケーション能力のさらなる強化を図るため、1 単位とし、さらに演習時間を充実する。

「診療の補助技術」

検査や治療を安全かつ正確に行う内容として、「与薬」「輸血」「検査」を組み入れる。また技術を提供するにあたり倫理的態度も養う。

「クオリティ看護論Ⅰ」

看護を科学的に展開するための思考のプロセスを学ぶものとする。

「クオリティ看護論Ⅱ」

臨床判断を行うために健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じて判断し、基礎的能力を養う。

また救急状況にある対象者への知識・技術を習得し、病院施設だけでなく、バイスタンダーとして地域住民にも対応していけるように上級救命講習を受講する。

「クオリティ看護論Ⅲ」

先人の看護理論に学び、看護に対する考え方を深められるよう、看護研究の基礎について学び、研究的態度を養う。

【目的】

看護の対象である人間の生を受けてから生を終えるまでのライフサイクルと、健康の意義及び保健・医療・福祉に於ける看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解する。
- 2 看護を実践する上での基礎となる知識と技術を習得する。
- 3 対象の健康障害を理解し、生活の状態に応じた看護の基本を理解する。
- 4 看護実践を科学的に展開する能力を養い、研究的態度を身につける。
- 5 対象の安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。

【構成および計画】

< 講義 >

授業科目	単位数	学年別計画時期		
		1年	2年	3年
看護学概論	1(30)	○		
看護理論	1(15)		○	
ヘルスアセスメント論	1(30)	○		
生活援助論Ⅰ	1(30)	○		
生活援助論Ⅱ	1(30)	○		
生活援助論Ⅲ	1(30)	○		
人間関係成立の技術	1(30)	○		
看護倫理	1(15)	○		
診療の補助技術	1(30)		○	
クオリティ看護論Ⅰ	1(30)	○		
クオリティ看護論Ⅱ	1(30)	○		
クオリティ看護論Ⅲ	1(30)			○
計	12(330)	9(255)	2(45)	1(30)

授業計画

科目名	看護学概論		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護の概念、看護の対象、看護の機能及び役割を学び、看護の本質を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	看護の概念	看護の概念	講義	専任教員*		
第2回		看護の変遷:古代・中世・近代 職業としての看護	講義 演習	専任教員*		
第3回		ナイチンゲールの看護論 ①	講義 演習	専任教員*		
第4回		ナイチンゲールの看護論 ②	演習	専任教員*		
第5回		ナイチンゲールの看護論 ③	演習	専任教員*		
第6回		看護の定義 ICN、日本看護協会、保健師助産師看護師法	講義	専任教員		
第7回	看護の対象	看護の対象としての人間① 統合体としての人間、成長発達する人間 生活者としての人間 生活の概念図、生活・暮らすとは ライフサイクルと健康・生活	講義 演習	専任教員*		
第8回		看護の対象としての人間② 患者の理解	講義 演習	専任教員*		
第9回	健康の概念	健康の捉え方 健康と環境、健康と生活(QOL) 健康とライフサイクル	講義 演習	専任教員*		
第10回		基本的権利としての健康 健康の実現・ヘルスプロモーション 予防の視点からみた健康、家族の生活と健康	講義	専任教員*		
第11回		健康な生活をするための諸制度	講義 演習	専任教員*		
第12回	看護の機能と 役割	看護活動の場と看護の役割 専門職としての看護	講義	専任教員*		
第13回 第14回		医療における多職種連携	講義 演習	専任教員* 医学部・薬学部・ 看護学校専任講師		
第15回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

授業計画

科目名	看護理論		単位数 (時間)	1単位 (15)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。 2. 「その人らしく生きる」を支援するための理論を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	看護理論の意義	看護理論の歴史の変遷 看護理論の種類	講義	専任教員*		
第2回	実践に必要な概念の理解	実践に必要な概念 中範囲理論の概要 認知行動理論、自己概念 自尊感情 ストレス コーピング 役割理論 家族理論 コンフォート理論、価値 信念、発達課題論	講義	専任教員*		
第3回		理論と実践をつなぐ主な中範囲理論	講義	専任教員*		
第4回	看護理論と実践	主な看護理論の概要と実践をつなぐ① ヘンダーソン、ワトソン ベナー、オレム、ロイ、キング トラベルビー、レイニンガー	演習	専任教員*		
第5回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ②	演習	専任教員*		
第6回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ③	演習	専任教員*		
第7回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ④	演習	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

授業計画

科目名	ヘルスアセスメント論		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護の対象である人の健康状態を評価する方法を理解し、基本技術を習得する。 ※恒常性維持、筋骨格、意識状態、心理社会的、症状モニタリングやマネジメントを含む					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	看護における ヘルスアセ スメント	ヘルスアセスメントの意義と目的 ヘルスアセスメントにおける観察と視点 生命活動と呼吸・循環 必要な情報収集 フィジカルアセスメントに必要な技術 フィジカルイグザミネーションの基本技術	講義	専任教員*		
第2回	バイタルサイ ン	バイタルサインの観察とアセスメント①	講義	専任教員*		
第3回		バイタルサインの観察とアセスメント②	講義	専任教員*		
第4回		バイタルサインの観察とアセスメント③ 記録の意義、体温表・フローシートの記載	講義	専任教員*		
第5回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際①	校内 実習	専任教員*		
第6回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際②	校内 実習	専任教員*		
第7回		フィジカルイ グザミネー ションを活用 した身体状態 の把握	系統別フィジカルアセスメント 呼吸器系	講義	専任教員*	
第8回	系統別フィジカルアセスメント 循環器系		講義	専任教員*		
第9回	フィジカルイグザミネーションの実際 ① 呼吸器系・循環器系		校内 実習	専任教員*		
第10回	フィジカルイグザミネーションの実際 ② 呼吸器系・循環器系		校内 実習	専任教員*		
第11回	系統別フィジカルアセスメント 腹部、筋・骨格系		講義	専任教員*		
第12回	系統別フィジカルアセスメント 神経系・感覚器系		講義	専任教員*		
第13回	フィジカルイグザミネーションの実際 ① 腹部 筋・骨格系		校内 実習	専任教員*		
第14回	フィジカルイグザミネーションの実際 ② 神経系・感覚器系		校内 実習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅰ(活動休息・生活環境)		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 日常生活における活動・休息の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 生活環境を整える意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	日常生活を援助 する意義	人間の日常生活行動 日常生活援助技術の概念 看護援助の基本的機能と日常生活援助	講義	専任教員*		
第2回	活動・休息の 援助	日常生活援助技術の基本 活動の援助	講義	専任教員*		
第3回		身体の動かし方・触れ方 基本肢位・良肢位 ボディメカニクス	講義 演習	専任教員*		
第4回		体位変換・ポジショニング 体位変換と基本の型①	校内 実習	専任教員*		
第5回		体位変換・ポジショニング 体位変換と基本の型②	校内 実習	専任教員*		
第6回		活動の援助方法 休息・睡眠の援助	講義	専任教員*		
第7回		車椅子・ストレッチャーの移乗・移送①	校内 実習	専任教員*		
第8回		車椅子・ストレッチャーの移乗・移送②	校内 実習	専任教員*		
第9回		安全・安楽な生 活環境の調整	環境の概念 療養環境調整における看護師の役割 患者を取り巻く療養環境 環境空間のアセスメント	講義	専任教員*	
第10回	毎日の療養生活の環境整備 リネンの取り扱い方		校内 実習	専任教員*		
第11回	ベッドメイキング		校内 実習	専任教員*		
第12回	臥床患者のリネン交換		講義	専任教員*		
第13回	療養環境を整える技術		校内 実習	専任教員*		
第14回	日常生活を整える環境整備 事例に合わせた環境整備		校内 実習	専任教員*		
第15回	評価			評価 方法	筆記 100 点	
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅱ(食事・排泄)		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 日常生活における食事・排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	食事・栄養の援助	食事の意義 食事と栄養における基本的知識	講義	専任教員*		
第2回		食事・栄養のアセスメント	講義	専任教員*		
第3回		食事における看護師の役割 食事・栄養に関する援助	講義	専任教員*		
第4回		食事援助を受ける対象と特徴 栄養サポートチーム(NST)の役割	講義	専任教員*		
第5回		食事の援助 (口腔ケア含む)	校内 実習	専任教員*		
s第6回	排泄の援助	排泄の意義 排泄と健康との関係	講義	専任教員*		
第7回		自然な排泄の援助方法 排泄行動の選択と援助の決定 感染予防	講義	専任教員*		
第8回		便器・尿器を用いた排泄援助 ① 尿意を訴えた際の排泄援助	校内 実習	専任教員*		
第9回		便器・尿器を用いた排泄援助 ② 便意を訴えた際の排泄援助と陰部洗浄	校内 実習	専任教員*		
第10回		自然な排便が困難な人への援助	講義	専任教員*		
第11回		浣腸・摘便	校内 実習	専任教員*		
第12回		自然な排尿が困難な人への援助	講義	専任教員*		
第13回		導尿 ① 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第14回		導尿 ② 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅲ(清潔・衣生活 安楽)		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 日常生活における清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 看護における安楽の意義と方法を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	清潔・衣生活の 援助	清潔・衣生活の意義と目的 清潔状態のアセスメント	講義	専任教員*		
第2回		衣生活のアセスメント 衣生活の条件と適切な病衣の選択 衣生活の援助技術	講義	専任教員*		
第3回		衣生活の援助の実際 寝衣交換	校内 実習	専任教員*		
第4回		清潔の援助技術 清潔援助の基本	講義	専任教員*		
第5回		入浴できない場合の清潔援助①	講義	専任教員*		
第6回		清拭の基本 安全で安楽な湯温の提供と清拭方法	演習	専任教員*		
第7回		清潔援助の実際 足浴 (爪切り含む)	校内 実習	専任教員*		
第8回		入浴できない場合の清潔援助②	講義	専任教員*		
第9回		清潔援助の実際 全身清拭 ①	校内 実習	専任教員*		
第10回		清潔援助の実際 全身清拭 ②	校内 実習	専任教員*		
第11回		清潔援助の実際 洗髪 ①	校内 実習	専任教員*		
第12回		清潔援助の実際 洗髪 ②	校内 実習	専任教員*		
第13回	安楽を提供する 技術	安楽の意義 安楽を阻害する原因のアセスメント 安楽を提供する援助方法	講義	専任教員*		
第14回		その人の日常生活に合わせた安楽の援助 (事例を通してシミュレーション)	校内 実習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	人間関係成立の技術		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護における人との関係構築に向けたコミュニケーションの基礎的な知識と技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	コミュニケーションの意義と目的	コミュニケーションの構成要素と成立過程 看護におけるコミュニケーションの意義と目的	講義	専任教員* (看護師)		
第2回	看護における関係構築のためのコミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの基本技術	講義	専任教員*		
第3回		接近的コミュニケーションの実際	演習	専任教員*		
第4回	看護における効果的なコミュニケーション	効果的なコミュニケーションの基本技術	講義	専任教員*		
第5回		効果的なコミュニケーションの実際① 傾聴・受容・共感	校内 実習	専任教員*		
第6回		効果的なコミュニケーションの実際② 傾聴・受容・共感	校内 実習	専任教員*		
第7回		情報収集と説明の基本技術	講義	専任教員*		
第8回		情報収集と説明の技術の実際	校内 実習	専任教員*		
第9回	医療におけるコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの基本技術 インフォームドコンセントと看護師の役割 グループでのコミュニケーション 家族とのコミュニケーション 報告の意義	講義	専任教員*		
第10回		医療におけるコミュニケーションの実際① 報告・連絡・調整	校内 実習	専任教員*		
第11回		医療におけるコミュニケーションの実際② 家族とのコミュニケーション カンファレンスの運営	校内 実習	専任教員*		
第12回	コミュニケーションに障害のある人への対応	コミュニケーションの障害とは	講義	専任教員*		
第13回		コミュニケーションに障害のある人への対応①	校内 実習	専任教員*		
第14回		コミュニケーションに障害のある人への対応②	校内 実習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	看護倫理(看護師としての倫理)		単位数 (時間)	1単位 (15)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護倫理について理解し看護者としての責任を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	倫理と生命 倫理	倫理とは 道徳・法律 生命倫理 医療倫理 ケアの倫理 看護における倫理 専門職と倫理 倫理綱領	講義	専任教員*		
第2回	看護倫理と 倫理的概念	患者の権利 自己決定、告知 患者の権利擁護 個人情報保護	講義	専任教員*		
第3回		意思決定を支援する技術 ケアリング ナラティブアプローチ 受容、傾聴、共感 エンパワーメント	講義	専任教員*		
第4回	倫理的問題 のアプロ ーチ	医療における倫理問題 倫理的葛藤 患者自身の治療選択を支える看護	講義	専任教員*		
第5回		医療における倫理問題 倫理的問題へのアプローチ 倫理的問題を解決するプロセス	講義	専任教員*		
第6回	看護実践に おける倫理 的意決定 の実際	グループワークとディスカッションによる 事例検討①	演習	専任教員*		
第7回		グループワークとディスカッションによる 事例検討②	演習	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

授業計画

科目名	診療の補助技術		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 薬物療法の意義と安全、確実に与薬する必要性を理解し、基礎的な知識・技術を習得する。 2. 検査における看護師の役割を理解する。 3. 輸血における看護師の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	薬物療法と看護	与薬の基礎知識 薬物についての基本的知識 与薬における安全対策	講義	専任教員*		
第2回		与薬時の看護者の役割	講義	専任教員* (看護師)		
第3回		内用薬・外用薬の種類と特徴、与薬の実際	講義	専任教員*		
第4回		経口与薬・直腸内与薬の準備・実施	校内 実習	専任教員*		
第5回		注射の基礎知識	講義	専任教員*		
第6回		注射の準備	講義 演習	専任教員*		
第7回		筋肉注射・皮下注射の準備・実施①	校内 実習	専任教員*		
第8回		筋肉注射・皮下注射の準備・実施②	校内 実習	専任教員*		
第9回		点滴静脈内注射 輸液の基礎知識、管理	講義	専任教員*		
第10回		点滴静脈内注射の準備・実施 ①	校内 実習	専任教員*		
第11回		点滴静脈内注射の準備・実施 ②	校内 実習	専任教員*		
第12回	輸血療法と看護	輸血療法の基礎知識 看護師の役割	講義	専任教員*		
第13回	診療・検査に 伴う看護	診療と看護① 診察の介助 1)目的 2)看護	講義	専任教員*		
第14回		診療と看護② 検査と処置の介助 検査、処置を受ける患者の心理	講義	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記・技術試験 100点		
備考						

授業計画

科目名	クオリティ看護論 I		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護過程の基礎知識を理解する。 2. その人らしい生活を支える看護を科学的思考に基づいて展開する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	看護過程	看護過程の意義と必要性 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素と相互関係	講義	専任教員*		
第2回		看護過程に必要な知識 1) 背景となる理論 2) 問題解決過程 3) クリティカルシンキング 4) 倫理的配慮と価値判断 5) リフレクション	講義	専任教員*		
第3回	アセスメント	アセスメントの考え方① 情報収集、情報の整理、分析・解釈	講義	専任教員*		
第4回		アセスメントの考え方② 全体像・関連図	講義	専任教員*		
第5回	看護問題の 明確化	看護問題の明確化(NANDA-I) 原因・誘因・症状・徴候 自己管理能力や対象のつよみ 問題の優先順位の決定	講義	専任教員*		
第6回	計画立案	看護計画の立案 成果の設定 看護介入の立案(観察計画・援助計画・教育計画)	講義	専任教員*		
第7回	実施	看護の実践の意義 優先順位と判断 記録(SOAP)	講義	専任教員*		
第8回	評価	看護計画の評価 評価の意義、目的	講義	専任教員*		
第9回	事例展開	アセスメント①	演習	専任教員*		
第10回		アセスメント②	演習	専任教員*		
第11回		アセスメント	講義 演習	専任教員*		
第12回		看護問題の明確化	演習	専任教員*		
第13回		看護計画の立案	演習	専任教員*		
第14回		看護の実践 ・ 看護計画の評価	講義 演習	専任教員*		
第15回		評価		評価 方法	筆記 100 点	
備考						

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅱ		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 看護の実践における的確な判断と適切な看護技術の根拠の必要性を理解する。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断の基礎的能力を身につける。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第1回	看護の実践 臨床判断	経過別・症状別看護 急性期・回復期・慢性期・終末期の看護 臨床判断モデル		講義	専任教員*	
第2回	臨床判断に必要な力	状態変化に対する気づきと解釈とは(例;呼吸困難)		講義	専任教員*	
第3回		症状・状態に応じた対応と振り返りとは		講義	専任教員*	
第4回	臨床判断に基づき看護技術	症状・状態にあわせた看護技術① (酸素吸入、ネブライザー、他)		校内 実習	専任教員*	
第5回		症状・状態にあわせた看護技術② (酸素吸入、ネブライザー、他)		校内 実習	専任教員*	
第6回	事例展開	臨床判断の基礎 事例を用いた展開 ① (気づきと解釈)		講義 演習	専任教員*	
第7回		臨床判断の基礎 事例を用いた展開 ② (気づきと解釈)		講義 演習	専任教員*	
第8回		事例を用いた展開 ① (対象の症状・状態に応じた看護の実践、報告)		校内 実習	専任教員*	
第9回		事例を用いた展開 ② (看護実践の振り返り)		校内 実習	専任教員*	
第10回	救急の状況と 看護	救急の状況とは 救急法と看護		講義	専任教員*	
第11回	救急状況にある患者の看護	救急法の実際① 心肺蘇生法		演習	外部講師 東京防災救急 協会	
第12回		救急法の実際② AED の使用方法		演習		
第13回		救急法の実際③ 止血法		演習		
第14回		救急法の実際 外傷時の応急処置		演習		
第15回	評価			評価 方法	筆記 100 点	
備考	校内実習・演習では、呼吸困難・発熱・浮腫などの事例で展開する。					

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅲ(看護研究)		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	3年次
科目 目標	1. 看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護を振り返る。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	看護研究の基 礎	研究の意義 研究倫理 看護研究の方法、研究プロセス	講義	専任教員*		
第2回		研究における文献検索 文献検索の目的・方法	講義	専任教員*		
第3回		研究論文の読み方 研究論文のクリティーク	講義	専任教員*		
第4回	ケーススタディ の基礎	論文のまとめ方 論文の読み方・論文の書き方 論文作成上の留意点	講義	専任教員*		
第5回		研究発表 抄録の書き方 発表の方法	講義	専任教員*		
第6回	ケーススタディ の実際	論文(ケーススタディ)の作成① 文献検索	演習	専任教員*		
第7回		論文(ケーススタディ)の作成② テーマの焦点化	演習	専任教員*		
第8回		論文(ケーススタディ)の作成③	演習	専任教員*		
第9回		論文(ケーススタディ)の作成④	演習	専任教員*		
第10回		論文(ケーススタディ)の作成⑤	演習	専任教員*		
第11回		論文(ケーススタディ)の作成⑥	演習	専任教員*		
第12回		ケーススタディの発表 ①	演習	専任教員*		
第13回		ケーススタディの発表 ②	演習	専任教員*		
第14回	研究発表の実 際	学術集会への参加	学会 参加	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考	学術集会に参加できない場合は、他の方法で学習する。					